

中国生活の開幕

氏家千夏

はじめまして。2026年度の埼玉県親善大使として山西大学国際交流教育学院に留学している氏家千夏と申します。9月から11月までの3カ月間という非常に短い期間ではありますが、このような貴重な機会をくださった埼玉県及び山西省の皆様への感謝を忘れずに、日々精進してまいります。

中国・山西省に到着してから今日までの約一カ月間は、私にとって、何をするにも勇気を振り絞って生き抜く期間でした。食堂や飲食店で食事をする際には、食事を入手するまでのシステムがよくわからず、周囲の様子を観察してから注文してみたり、注文時には心の中で何を言うか複数回練習してから実際に注文してみたりなど、食事をするにすら勇気と多くの労力が必要でした。さらに、今年度の山西大学への留学生は例年と比べて非常に多いそうですが、数多くいる留学生の中で日本人は私たった一人だけです。日本人が自分以外にいない、という状況を人生で初めて経験し、初めは不安だらけでした。また、留学期間が3カ月のみなのが私一人だけだったので、他の留学生とは手続きが異なる場合が多々あり、戸惑うことも多かったです。しかし、ルームメイトのベトナム人、彼女の友人たちが何かと気にかけてくれ、手料理をふるまってくれたり、校内を案内してくれたり、何か手続きが必要な際には付き添ってくれたりもしました。彼女たちの温かいサポートがなかったら、ここでの生活に慣れるのにもっと多くの時間が必要だったと思います。彼女たちの優しさには感謝してもしきれません。

授業は月曜日から金曜日の朝8時から12時までで2コマ設定されています。私が在籍している日本の大学では1限が9時開始であるため、それよりも1時間早い8時に授業が開始するということを知った時には、授業に間に合うように起きられるかがとにかく心配でした。また山西大学の塢城キャンパスは非常に広く、寮の近くの北門から反対側の南門に行くのに徒歩で約30分かかるため、特に授業に向かう際には時間に余裕を持って行動する必要があります。朝が苦手な自分には比較的厳しい条件ですが、一度も遅刻せずに何とか通えています。最近では授業前に食堂に寄り肉まんを買ってから教室に向かうことも増え、中国での生活に適応してきているなど実感しています。食堂は朝でも大盛況で、多くの学生が肉まんやゆで卵、豆乳などを購入していきます。中国には「朝は皇帝のように食べ、夜は乞食のような食事をする」という言葉があります。朝食を食べない学生ももちろんいるとは思いますが、朝からきちん

と食事をして授業に向かう学生の姿は、まさにこの言葉を体現しているように感じます。

山西大学には食堂の他に許西美食街という飲食店街が隣接されており、学生たちの日々の食事を支えています。マーラータンや牛肉麺、ワンタンなど、多種多様な飲食店があるため、毎日飽きることなく食事をすることができます。渡航前は中国での食事に飽きてしまうのではないかと懸念していたのですが、この場所のおかげでいまだに飽きることなく中国での食事を楽しめています。また飲食店以外にも美容室やスーパー、ネイルサロンなどもあるため、何か困ったことや必要なことがある時は許西美食街に行くことで一通りのことは全て解決できます。許西美食街はお祭りのような雰囲気がある場所で行くだけでも楽しいため、私のお気に入りの場所の一つでもあります。

中国での生活は日本とのギャップが大きく、場合によっては受け入れがたいこともあります。地元の人々に溶け込んで日常生活を送れるということは旅行では絶対に体験できないことだと思います。この機会を大切に、1日1日を充実したものにしていきたいです。



←毎日のようにマーラータンを食べています。日本円で 300～400 円ほどで食べられます。日本では具沢山の麺料理のように考えられていますが、中国では麺を入れずにマーラータンをおかずにご飯を食べることが多いので驚きです。



右側の料理は中国の東北部で食べられている「鍋包肉（グオバオロウ）」という料理です。先述した許西美食街に鍋包肉の人気店がありいつも行列ができています。衣をつけて揚げたサクサクの豚肉に甘酢タレがからんでいて絶品です。一週間毎日これを食べ続けたことのある友人もいるほどです。左側はスイカですが、中国は果物も非常に安く、200 円あればこの量のスイカを買うことができます。果物屋さんで購入したい量に合わせてその場で切ってくれます。



風邪をひいて大学内の病院に行きました。熱で意識が朦朧とした状態で中国語で診察を受けるのは大変でしたが、待ち時間もなく診察料も安かったです。大学内に病院があることもすごいです。簡易的な病院ではなく内科や外科、歯科など細かく分かれており病状に合わせて受診することができ、中国の大学の規模の大きさを感じました。